

「日本における染料植物と伝統的染色法の保全：

エキスパートによるネットワーク持続可能な資源としての天然染料の普及活動

By 角 寿子&NGO アースネットワーク（活動：天然の色の研究と普及）

【概要】

1、日本の伝統文化の中には多くの天然染料や顔料を使った作品は現存しており、たとえば、藍や茜染などの着物や生活の中で使われてきた多くの布裂、また掛け軸や屏風に描かれた日本画などがある。しかしながら、今日の日本の生活様式は急速に変化しており、天然の染料や顔料は化学工場で製造された化学染料や絵の具に取って代わってしまった。多くの工芸家や芸術家や職人など一専門家達のすばらしい努力にもかかわらず、現在の市民生活、産業の中ではその染料植物や顔料、技法は瀕死の状態である。

化学染料は私達の暮らしの周りにある様々な布や塗装された壁、車や船など多くの工業製品に使われている。しかしながら最近の調査結果では、化学染料や塗料が多くの人々に喘息やアレルギーを引き起こす要因になっている。また室内塗料に含まれる有機化学薬品が住人を化学物質過敏症と呼ばれる病気にさせ、室内環境を汚染している。

そんな現状から、伝統的な染料や顔料はそれらに取って換わる可能性を持っていると判断した。

2、アースネットワークは天然染料の普及活動をするために1994年にNGO(非政府組織)として設立した。メンバーは科学者や染織家、画家、教師、カラリストなどを職業とする多様な個性や技術をもつ者達で構成されている。私達は天然染料顔料会議や国内外の科学者と天然の色を科学的に学んでいる。

3、この天然染料や顔料や伝統技法は、自然資源を有効に活用しているものであり、今世紀に問題となっている有害な化学物質-アレルギー、化学物質過敏症問題を引き起こす環境ホルモン、難分解・残留性重金属-問題に対するひとつの解決法であり、将来の持続可能な資源でもある。

・アースネットワークはNGOとして、天然染料や顔料や伝統技法の普及を目的として、以下のことを行っている。

-日本各地方で染料植物や貝、繊維の保全活動、

-栽培、染料の抽出、使い方のワークショップ開催

-現在の身近な自然の中で自生している染料植物や貝の生育例と染色方法のデータ-ベース作成

-化学物質過敏症にも対応した天然染料や顔料を使った絵の具教材やテキスト作成

私達は初期の1997年~2003年まで、環境事業団や北海道文化財団から活動の助成を受けた。

4、私達は約40人のメンバーで4つの事務局を置いている。それぞれの事務局が各地域で1年を通して伝統的染織の様々なワークショップを開催し、日本の北から南まで天然染料を普及するためのネットワーク活動をしている。私達が開発した天然染料や顔料を使ったテキストは学校や子供たちに受け入れられている。それは年々増加しており、最近では2008年度の高校化学の教科書に私達が栽培している染料植物の画像が採用された。

5、この活動は、限られたコミュニティや日本国内に限られたものでなく国際的なパートナーシップを通して国際的なネットワークに展開できるものと確信する。各国が国を越え、天然染料植物や貝、昆虫の調査・研究、それに基づく保全、栽培、流通、経済活動をする必要がある。

このシンポジウムはそれを地球規模で共通認識し行動をおこすスタートになると思う。